

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐山高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年5月11日(月) 14:00~16:00
- 3 開催場所 岐山高等学校会議室  
開催にあたり、委員による授業見学を実施した
- 4 参加者 委 員 (敬称略、五十音順)  
石井 郁夫 長良東小学校地区自治会連合会 会長 (欠席)  
杉本 昭一 本校PTA副会長  
中川ひろみ 岐阜大学医学部看護学科 教授  
野田 紀子 長良東民生委員主任児童委員  
長谷川哲也 岐阜大学教育学部学校教育講座 准教授  
村山 聡江 株式会社タキノバ 代表取締役  
若井 悟 本校元同窓会長  
  
学 校 側 棚橋 武司 校長  
尾関 香織 教頭  
松本 正樹 教頭  
川口 晋 教務部長  
松野 将之 生徒支援部長  
黒木 綾子 進路支援部長  
中西やよい 記録(教務部)

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業見学についての感想

感想1: 授業の様子、保護者が見ることはあまりないが、昨年度、文化祭・運動会で子供たちの姿を見ることができるのが嬉しい。私服と新校舎で開放的な雰囲気があって良い。

感想2: 大学では、グループワークが上手く出来ない学生もいる。今日の授業では、グループワークがみられたので、高校でも協働する力を育んでほしい。

感想3: 1年生はまだ慣れていないのか、覗くと気もそぞろで後ろを見ているが、3年生は、しっかりと学びに向かう姿勢が出来ている。自由だが学習規律が保たれた良い環境で学びが出来ている。

感想4: 全ての教室にプロジェクターが設置されており、教員の働き方改革にも繋がっているのではと思う。プロジェクターの投影はホワイトボードの真ん中のみで文字数を減らした見せ方が必要となる。余白の部分をどう使うか、自分も学びたい。

(2) 岐山高校の学校経営の基本方針について

令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画

【教務部】

⇒生徒の力を伸ばすために、基礎を大切にしながら段階的に応用へとつなぐ学習指導を行い、課題の出し方を工夫して、生徒一人一人の良さや考えを引き出す指導を目指す。そのために教員は、業務を効率化して授業準備や生徒理解に時間をかけ、授業力を高めるとともに、広い視野を持って指導に当たる。こうした取り組みにより、生徒の学習支援と教員の授業力向上が互いに高め合い、その成果を生徒に還元する好循環をつくっていく。

【進路支援部】

⇒昨年度から各学年でテーマを設定して取り組んでいる。1年生は「広い視野で進路研究」、2年生は「探究的な経験を積み上げよう」、3年生は「自己課題の分析と対策に努める」ことを重視している。昨年度からの反省を踏まえ、入学から卒業までの3年間を見通した指導と、各学年で意識するポイントや進路行事の見通しを大切にしていく。これらは生徒への提示やホームページで共有し、教員・生徒・保護者が連携して進めていく。本校は探究部との関わりが深く、進路と探究を結び付けながら生き方について考えさせることができている。今年度は、入学時の学習意欲が高い時期に外部講師による講演を計画し進路設計に向けた刺激を与え、2年生では地方国立大学の特色ある学びを紹介する講演を計画し生徒の視野を広げていく。

【生徒支援部】

⇒ 本校で特に大切にしたい点は三つある。1つ目は交通事故の減少である。今年度も4月以降に5件以上の事故が起きており、生徒の安心・安全を最優先に考え、交通規則の理解を深める指導を行っている。特に保健体育科と連携し、保健の授業において1年生は交通事故の単元から学習を始めるなどの工夫を進めている。2つ目は他者と共生し、他者を認める力をさらに高めることである。本校の生徒は基本的な姿勢は身に付いているが、コミュニケーション力を一層磨くことで、より良い人間関係を築けるよう支援していく。3つ目は挨拶の定着であり、教員が積極的に挨拶を行うことで、生徒が自然に挨拶できる学校環境をつくっていくことを大切にしている。

意見1：本校は自然が豊かな環境で都市も近い。探究と自然と都市が近いのは相性がよいのではないか。学校の立地を生かして探究活動を推進していくことができないか。

⇒立地を生かした探究はとてもよい。探究部・教務部と連携して進めていきたい。

意見2：A Iの活用について、大学でも課題となっている。思考をどのように組み立てていくかというプロセスを大事にしたい。

⇒A Iの活用は、文部科学省も推進しており、子どもたちにとっては身近な存在となっている。一方で、教員の中には十分に慣れていない場合もあるため、研修などを通して理解を深め、授業や校務に生かせるようにしていくことが大切である。教員がA Iを適切に活用できるようになることで、教育の質を高め、より良い学びにつなげていく。

意見3：探究をどのように進めるかは容易ではないが、探究とは本来、社会をどのようにより良く変えていくかを目的とする学びである。大切なのは、なぜ探究に取り組むの

か、何に課題意識を持ち、社会課題にどう向き合うのかを考えることである。また、生徒が地域の一員としてどのように関わっていくかを考える視点も欠かせない。学校で探究を核とするためには、探究を学校全体の取組として位置付け、各教科とどのようにつなげていくかを意識したプロセスづくりが重要であり、その実現には大きなエネルギーと教員間・地域との連携が求められる。

⇒探究活動は一筋縄ではいかない難しさがあり、生徒一人一人が持つ多様な探究課題にどのように向き合い、支援していくかが大きな課題である。探究部を中心に進めていく。

意見4：探究のプレゼンテーション能力を養うとは、誰に対してのプレゼンテーションのことか。

⇒校内での発表において、どのような発表の仕方が効果的かを考える能力を想定している。授業の探究の発表は校内が中心ではあるが、自然科学部での発表は、学会などでも発表している。

⇒アウトプットが校外にあると刺激にもなるのではないか。

⇒1年生の科学トレーニング発表会は、校内だけでなく、外部から中学生や保護者も参加する。

⇒外部発信について、最終的なアウトプットはその課題をもっている人に対して行うのが良い。アウトプット先が生徒からでてくるともっと良い。

意見5：教務部の学校経営に挙げられている情報の共有は、どのようなツールでおこなっているのか。

⇒情報共有のための特別なツールは整っていないものの、学校現場では担任が一人で課題を抱え込んでしまう傾向がある。しかし、実際には相談してみると、さまざまな教員が多様な視点やアイデアを持っていることが少なくない。また、40代・50代の教員が少ない影響で、特に30代の教員は、これまで先輩から自然に学んでいた指導や校務のノウハウを十分に引き継がれないまま業務を進めている現状もある。だからこそ、教員同士が気軽に相談し合い、経験や知恵を共有できる、風通しのよい職場づくりが大切である。

⇒情報共有は最終的には対面がいいと思うが、デジタルツールでの情報交換が若い先生とのコミュニケーションの入口になることもある。

## 6 会議のまとめ

- ・令和8年度 教育指導の重点及び学校経営計画は資料の通りとする事の承認が得られた。